

第一問（40点満点）

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 集団や組織の持続には指導者の存在が不可避だが、人々の上に立つ指導者の存在は、人々の平等という民主主義の原則に違反する恐れがあるから。 B

■採点方法…要素採点＋要素間の関係（AとBの関係⇕逆接の関係）

■要素A「集団や組織の持続には指導者の存在が不可避」…2点

■要素B「人の上に立つ指導者の存在は、人々の平等という民主主義の原則に違反する恐れがある」…4点

■関係C AとBの関係が逆接の関係であること…2点

■要素D…文末表現は「……から。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素C参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

市民の自律を重視するあまり民主主義における指導者の問題を考慮に入れない点と、積極的に政治に参加する市民というイメージが現実と乖離している点。

B

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「市民の自律を重視する余り民主主義における指導者の問題を入れない点」…4点

- 要素B 「積極的に政治に参加する市民というイメージが現実と乖離している点」…4点

- 要素C…文末表現は「……点。」あるいは「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素C参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 継続的、積極的な政治参加をたえず期待される市民に比べ、
B フォロワーの政治参加のあり方は
非固定的で自由度の高いものであるということ。

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「継続的、積極的な政治参加をたえず期待される市民に比べ」…4点

- 要素B 「フォロワーの政治参加のあり方は非固定的で自由度の高いものである」…4点

- 関係C 文末表現は「……こと。」が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問四

■形式上の不備

- ・ 字数が一〇〇字に満たない場合、加点なし。
- ・ 文末表現は要素F参照

基準 配点13点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

指導者を重視せず、常に積極的な政治参加を求められる市民や、指導者に追随するだけの受動的な大衆と違い、指導者とともにリーダーシップを構成し、多様な政治参加のあり方に開かれたフォロワーは、今必要な民主的リーダーシップを支える新しいあり方だから。(一二〇字)

■採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「指導者を重視せず、常に積極的な政治参加を求められる市民」…3点
- 要素B 「指導者に追随するだけの受動的な大衆」…3点
- 要素C 「指導者とともにリーダーシップを構成し」…2点
- 要素D 「多様な政治参加のあり方に開かれたフォロワーは」…2点
- 要素E 「今必要な民主的リーダーシップを支える新しいあり方」…3点
- 要素F …文末表現は「…：…から。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問五 漢字の書き取り 各1点×3

- a 補償
- b 心酔
- c 台頭(擡頭)

★2023年度 東大本番レベル模試 第2回 第二問(古文『平家物語』) 採点基準

※文科30点・理科20点

第二問 (一) 文科A・理科A 傍線部を現代語訳せよ。

- 問題 12ページ、第1段落の傍線部(文科A・理科A)を現代語訳する問題。
- 文末表現は、要素Aにあるとおり。
 - ・句読点の抜け、書き誤りは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A3 おくれ奉らせ給ひて後は、

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 先立たれ申し上げなさってからは、

- 採点方法 各要素単独採点。
- 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【3点】先立たれ申し上げなさってからは、

※「先立たれる」の意がない場合は【0点】。

※1「先立たれてからは・先立たれた後(以降)は」の意があれば【1点】。

「からは・後は」の「は」はなくてもよい。

※1の意がある上で、謙譲の意(Ⅱく申しあげる等)もあれば【2点】。

※1の意がある上で、尊敬の意(Ⅱくなさる・くられる等)もあれば【2点】。

※1の意がある上で、謙譲の意も、尊敬の意もあれば【3点】。

第二問 (一) 文科ウ・理科イ 傍線部を現代語訳せよ。

■ 問題 12ページ、第1段落の傍線部(文科ウ・理科イ)を現代語訳する問題。

■ 文末表現は、要素Bにあるとおり。

・句読点の抜け、書き誤りは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1 などが **B2** 観点に任せざる **A** べき

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1 どうして **B2** 自分の思いどおりにならない **A** ことがあるうか、

■ 採点方法 各要素単独採点。

■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】 どうして ～ことがあるうか、

※「どうして(なぜ)」があり、反語表現と分かる表現になっていればよい。

「どうして(なぜ)」がない場合は×。

疑問表現になっている場合は×。

要素B【2点】 自分の思い通りにならない

第二問 (一) 文科力・理工 傍線部を現代語訳せよ。

- 問題 13ページ、第2段落の傍線部(文科力・理工)を現代語訳する問題。
- 文末表現は、要素Bにあるとおり。
- ・ 句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1とみにもB2奉らず。

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1すぐにもB1車にお乗りにならない。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】すぐにも

要素B【2点】お乗りにならない。

第二問 文科(二)「文科のみ」

「この事天下において」となる勝事なれ」(傍線部イ)とはどういうことか、具体的に説明せよ。

- 問題 12ページ、第1段落の傍線部ア「この事天下において」となる勝事なれ」についての内容説明問題。

・「この事」が、第1段落の傍線部の前の内容や傍線部の後の「則天皇后」の例などから、「同じ女性が二代の帝の后になること」を意味する「ことを踏まえる」。

・「ことなる勝事なれ」が、「則天皇后」の例の後の「わか朝には、いまだ二題の后に立たせ給へる例を聞かず」などから、「前例のないことだ」の意である「ことを踏まえる」。

- 文末表現は限定なし(内容説明になっていればよい)。
- ・ 句読点の抜けは不問。

- 基準 配点【5点】

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2 同じ女性が二代の帝の后になることは、**B3** 前例のないことだ、という「こと」。

- 採点方法 各要素単独採点。要素Bには条件あり。

- 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】 同じ女性が二代の帝の后になることは、

要素B【3点】 前例のない「ことだ、という「こと」。

※要素Aが0点の場合(誤字等で0点になった場合は除く)は、要素B加算なし。

第二問 文科(三)「文科のみ」

「同じ野原の露とも消え、家をも出で世をも逃れたりせば、今かかるうき耳をば聞かざらまし」
(傍線部エ)の大意を示せ。

- 問題 12ページ、第2段落の傍線部エ「同じ野原の露とも消え、家をも出で世をも逃れたりせば、今かかるうき耳をば聞かざらまし」についての内容説明問題。
 - ・「同じ野原の露とも消え」が「先帝(近衛帝)と共に死ぬ」の意である「とを踏まえる」。
 - ・「家をも出で世をも逃れたり」が「出家する」の意である「とを踏まえる」。
 - ・「……せばらまし」が反実仮想であることを踏まえる。
 - ・「かかるうき耳」が「今上帝(二条帝)の后になる話」の意である「とを踏まえる」。

- 文末表現は不問。
 - ・句読点の抜けは不問。

- 基準 配点【5点】

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2先帝と共に死ぬか **A1**出家していれば、 **A2**再入内の話を聞かずにすんだであろうに。

- 採点方法 各要素単独採点。

- 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】先帝と共に死ぬか 〃 ければ

要素B【1点】出家していれば、

要素C【2点】再入内の話を聞かずにすんだであろうに。

第二問 文科(四)・理科(二)

「父の大臣」が「ただすみやかに参らせ給ふべきなり」(傍線部 文科オ・理科ウ)と言ったのはなぜか、説明せよ。

■ 問題 12ページ、第二段落の傍線部(文科オ・理科ウ)「ただすみやかに参らせ給ふべきなり」について、「父の大臣」がそのように言った理由を説明する問題。

・父大臣の言葉の中の「すでに詔命を下さる。子細を申すに所なし。」(傍線部オの直前)と、「もし皇子御誕生ありて、外粗と仰がるべき瑞相にてもや候ふらむ」(傍線部オの直後)を踏まえ

■ 文末表現は、「から・ので」などが望ましいが、理由説明として成立していれば、それら以外の文末表現でもよしとする。

・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【5点】

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2 勅命には従わざるをえず、**B3** 皇子が誕生でもすれば外祖父になれるから。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【2点】 勅命には従わざるをえず、

要素B【3点】 皇子が誕生でもすれば外祖父になれるから。

第二問 文科(五)・理科(三)

「思ひきやうき身ながらにめぐりきておなじ雲井の月を見むとは」(傍線部 文科キ・理科オ)の和歌について、何を「思ひきや」なのかを補って現代語訳せよ。

■ 問題 13ページ、最終行の傍線部(文科キ・理科オ)の和歌「思ひきやうき身ながらにめぐりきておなじ雲井の月を見むとは」を、何を「思ひきや」なのかを補って現代語訳する問題。

・「思ひきや」が倒置になっている反語で「思いもしなかった」の意である「**こと**を踏まえる」。

・「うき身ながら」の「うき」が「つゞい」の意である「**こと**を踏まえる」。

・めぐりきて「が」「二条帝への再入内によって(再び宮中へ戻ってきたこと)」を意味する「**こと**を踏まえる」。

・「おなじ雲井の月」の「雲井」が「宮中」の意を含んでいる「**こと**を踏まえる」(この「月」は「亡き近衛帝が雲を描き加えた月の絵のことであるが、「宮中の月」となっていればよしとする。)

■ 文末表現**要素D**にあるとおり。

・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【6点】

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1 つらい身のまま **B1** 宮中へ戻って **C2** 昔と同じ宮中の月を見ようとは **D2** 思いもしなかった。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】 うき身ながらに ↓ つらい身のまま

要素B【1点】 めぐりきて ↓ 宮中へ戻って

要素C【3点】 昔と同じ宮中の月を見ようとは

要素D【1点】 思いもしなかった。

(1)

〇2点

a 何を食べても同じである。 (2点)

※a「何を食べても」のような補いは不問とする。

※b「すべて同じである」「どれも同じことである」「何で(あって)も同じである」など〇

c どうしてこれを否定できようか。 (2点)

※「之(これ)」「はそのままでもいいが、字数が入るなら」「その土地の食物」のように入れてもよい。

※「棄つ」は(注)「否定する。拒んで食べない」があるから、そのまま用いれば可。

※「どうしてこれを否定できようか」「どうしてそれを拒否できようか」など〇

※「これ(それ)を拒むことはできないも〇

※「どうしてこれを否定するだろうか」のように、不可能の意が欠けているものは△ー1点

※「どうしてこれを捨てられようか」のように「棄つ」のままのものは△ー1点

○一点

○一点

d 弁別する^a 余裕もなかった^b。(2点)

a 「弁別する」の訳出 一点

b 「未だ暇あらかざる」の訳出 一点

(二)

〇2点

〇4点

「住む土地が変われば、その土地でとれるものを食べるしかない。」から。(6点)

a 「住む土地が変われば」「そもそもその土地に生まれれば」「住む場所によって」「土地(場所)が変われば」「移住したら」など〇2点

b 「その土地でとれるものを食べるしかない」「そこでの食べ物に満足する」「食べるものを選べない」「そこでもとれるものを食べるのは当然である」など〇4点

c 文末の「〜から」「〜ので」「〜ため」の有無は不問とする。

(三)

〇二点

〇三點

〇三點

「^a筆者が「^bメだと思つて食べたのはキ^c」で、^bあまりにも空腹であつたため、^c美味に感じたただだ^dと^eいふこと。」(8点)

a 「此れ黍稷なり」の内容 2点

b 「惟だ甚だ飢うるが故に」の内容 3点

c 「甚だ美なり」の内容 3点

d 文末の「〜ということ」の有無は不問とする。

(四) 文科のみ

〇2点

〇4点

〇4点

「^a道」を求めるとあって、^b飢え渴くような切実さがあれば、^c対象が儒教か道教かなど問題ではない。^dということ。(一〇点)

a 「余の道に於けること」の要素 2点

b 「今の食に望むがごとくならしめば」の要素 4点

c 「孔老扱ぶに暇あらんや」の要素 4点

d 文末の「〜ということ」の有無は不問とする。

第四問（20点満点）

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

筆者にとって詩や文章を書く営為は、身近な範囲で起こる日々の些末な出来事に心とらわれる

B

平凡な暮らしと 密接に結びついているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「筆者にとって詩や文章を書く営為は」…1点

■要素B 「身近な範囲で起こる日々の些末な出来事に心とらわれる平凡な暮らしと」…3点

■要素C 「密接に結びついている」…1点

■要素D…文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

結婚もせず子も持たず、会社での昇格とも無縁なままに、^B現実的な見返りのない詩作を続けて

C

きた自分の愚直な生き方を、滑稽に思う気持ち。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「結婚もせず子も持たず、会社での昇格とも無縁なままに」…1点

■要素B 「現実的な見返りのない詩作を続けてきた自分の愚直な生き方を」…2点

■要素C 「滑稽に思う気持ち」…2点

■要素D…答案が全体としてへ「私」の気持ちについて説明となっていれば、文末表現に「〜だから。」など、明らかに不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。ただし、

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素C参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 書いても金や榮譽につながる詩の非実用性の中にこそ、金や榮譽になびかない人間の形成に役立つという筆者にとつての詩の実用性があるということ。 B

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「書いても金や榮譽につながる詩の非実用性の中にこそ」…2点

■要素B 「金や榮譽になびかない人間の形成に役立つという筆者にとつての詩の実用性がある」…3点

■要素C 文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素C参照

基準 配点5

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B

詩には、一人の読み手に対してだけでなく、より広い社会的現実に対しても
及ぼし変革をもたらす力があるはずだということ。 潜在的に影響を

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「詩には、潜在的に影響を及ぼし変革をもたらす力があるはずだ」…3点

- 要素B 「一人の読み手に対してだけでなく、より広い社会的現実に対しても」…2点

- 要素C 文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。